

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, July, 2009

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

○7月の状況 (佐藤)

☆ C/2009 04 (Hill)

IAUC 9059 によると、R. E. Hill は、Catalina の 0.68-m Schmidt 望遠鏡で明るく北西から南東に $15'' \times 20''$ の細長いコマと p. a. 300° に約 $2'$ の広く拡散した尾がある 16.3 等の彗星を発見した。国内観測では、井狩康一氏 (滋賀県守山市, 26-cm f/7 反射) は $0'.3$ のコマと p. a. 315° に $0.6'$ の尾ありと報告している。

IAUC の発行に先立って、7月31日 06:15、筆者から彗星課メーリングリスト (以下 oaa-comet ML) へ New Object 900DB7B との Subject をつけ「NEOCP にやや明るい天体の発見が掲載されています。…軌道傾斜角の大きな天体です。放物線軌道では近日点通過は来年1月となりました。ただ、そんなに明るくはならないようです。…」とコメントした。

これに応じて同日 06:51、東京都大田区の佐藤英貴氏から oaa-comet ML に「…NEOCP object 900DB7B は彗星と思います。30''程度のコマと、PA 275° の方向に淡い $65''$ の尾が写ります。豪州 Moorook で、薄明迫る中、急遽観測しました…」とオーストラリア Moorook にある RAS 天文台の 0.25-m f/6 Ritchey-Chretien 望遠鏡を使用したリモート観測を行っていたとの報告があった。

☆ C/2006 W3 (Christensen) (写真 a)

7月20日 22:10、筆者から oaa-comet ML に「C/2006 W3 (Christensen) の眼視観測報告です。梅雨がまだ明ける気配はありませんが昨夜は久しぶりに晴れましたので西側の郊外に出かけました。ただ午後8時ごろまでは西側に雲がのこり C/2008 Q3 (Garradd) は捉えましたが観測にならず光度は求められません。10等ぐらいの拡散した微かなコマが見えました。その後、天の川がハッキリ見えるほど透明度は良くなりましたがそれでも低空でのシーイングは良くありません。木星が昇ってきたので望遠鏡を向けてみるとぐちゃぐちゃで縞模様も見えない悪さでした。高度が高い C/2006 W3 はかなり明るく 10cm 双眼鏡で位置を確認し、今回一緒に持っていった

25cm 反射で見てみると非常に中央集光が強くなっていました」とのコメントと観測報告をした。

☆ C/2009 K4 (Gibbs)

Moorook の D90 や Mayhill の H06 のリモート望遠鏡を使用し精力的に位置観測をしている東京都の佐藤英貴氏から 7 月 2 日 17:53、oaa-comet ML に「夕空低空で条件が悪い C/2009 K4 (Gibbs)をようやく捉えました。例によって米国ニューメキシコ州 Mayhill (H06)からのリモート観測です。2夜ともイプシロン 250+ST8ME による観測です。この彗星は MPC の軌道要素から得られる位置予報とのずれがかなり大きいので 1 夜の観測では不安でしたが、2 夜目の観測でもやはり大きなずれを示していることから、この観測は正しいと考えることにしました」とのコメントと位置観測が報告された。

この後、筆者からこの観測を加えた改良軌道要素と残差が報告され、4 日 09:03、佐藤英貴氏から oaa-comet ML に「…C/2009 K4 の 2 夜の観測と以前の観測とリンクできたことに安堵しています。この彗星は古参の長周期彗星にありがちな、近日点付近で急に明るくなるタイプの彗星なのかもしれません。発見時に既に西空の太陽離隔 50° の低空に位置し、それ以前には北天高く条件がよかったはずなのに発見されていないことが不思議でした。…」とのコメントがあった。

● 眼視光度観測報告

C/2006 W3 (Christensen)

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
July	14. 56	8.8	2.5'	6/	1.7'	220°	4/5	-	45×20-cmC	永島和郎	①
	19. 55	8.6	2.8	6/	-	-	4/5	4/5	66×25-cmL	佐藤裕久	
	19. 55	8.5	3	7	-	-	4/5	4/5	25×10-cmB	佐藤裕久	

C/2008 Q3 (Garradd)

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
July	14. 53	9.8	0.9'	2	-	-	3/5	-	56×20-cmC	永島和郎	① ②

① カタディオプトリック式望遠鏡 ②11.08 等の星と重なったため+0.25 等の補正を行った。

☆ 64P/Swift-Gehrels

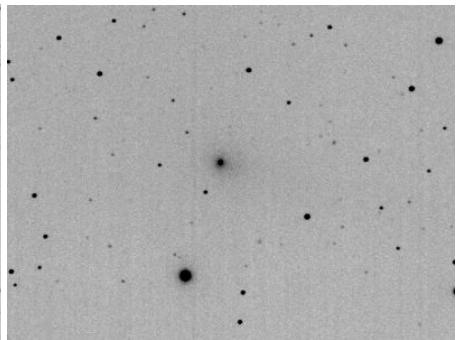
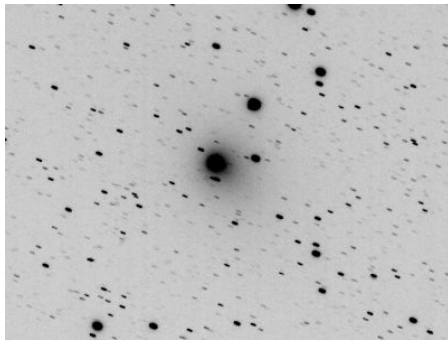
埼玉県上尾市の門田健一氏は、6 月 26.77 日 UT、64P/Swift-Gehrels を CCD 全光度 13.9 等で観測したが、予報からは赤経側に-84"ほどのズレが生じていた。6 月 30 日 19:42、門田氏から oaa-comet ML に「…3 夜狙ったのですが、薄明中の低空で条件が悪く、確認できたのは 1 夜だけでした。

写りが良くないため 1 枚の画像では見られず、予報軌道から少し外れていましたが、連続撮像した画像を半分のグループに分けてコンポジットすると、両方に 64P のモーションに合致した像が写っていましたので、実在すると判断しました。…」との報告され、7 月 9 日 03:41、同氏から「1 夜目からしばらく悪天候が続きましたが、昨夜、雲間から観測できました。…」と報告があり、7 月 7.76 日 UT、2 夜目の観測が得られた。これに応じて、高知市の村岡健治氏と筆者から 1973 年以前の観測を除外した連結軌道要素が報告された。

○その他 7 月に発見された彗星

- ☆ C/2009 02 (Catalina) 7 月 27.30 日 UT、Catalina スカイサーベイのコース上に 19.5 等の小惑星状の彗星が発見された。NEO Confirmation Page に掲載された。J. V. Scotti (月惑星研究所, LPL, Kitt Peak の 1.8-m f/2.7 反射)ら CCD 位置観測者によって彗星状として観測された (IAUC 9057, 2009 July 30)。
- ☆ P/2009 03 (Hill) 7 月 30.37 日 UT、R. E. Hill は、Catalina の 0.68-m Schmidt 望遠鏡で北東から南西に $6'' \times 10''$ の細長いコマと p. a. 260° に約 $2'$ の広く拡散した尾がある 17.5 等の彗星を発見した。MPC の NEOCP に掲載後、CCD 位置観測者によって彗星状として観測された (IAUC 9058, 2009 July 30)。

その他明るい彗星は、C/2008 Q3 (Garradd), 22P/Kopff (写真 b), C/2008 T2 (Cardinal), P/2009 L2 (Yang-Gao), C/2006 Q1 (McNaught) 等であった。



(写真 a) C/2006 W3 (Christensen) 2009, 07, 15
0h20.0m-30.0m (JST) exp. 60s \times 7 TOA130+CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏

(写真 b) 22P/Kopff 2009, 07, 15
1h00.0m-10.0m (JST) exp. 60s \times 7 TOA130+CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏